

Be-News

別府大学のアツい想いをスクープ



別府大学
別府大学短期大学部

NO.120
2020 SPRING

Beppu University, Beppu University Junior College Magazine

Be-News

特集

別府大学 はじまり物語

建学の
精神を
ひもとく



Veritas
Liberat

スペシャルインタビュー
パラ陸上競技選手
中西麻耶選手
一緒に湯に学ぼう！
別府〴〵温泉〴〵大学
卒業生インタビュー
こんにちは先輩!!
地域連携

編集／別府大学・別府大学短期大学部 広報室 発行日／令和2年4月1日 印刷／佐伯印刷株式会社
別府大学・別府大学短期大学部 〒874-8501 大分県別府市北石垣82 TEL.0977-66-6262 (広報室)
禁断転載



LINE@



真理はわれらを自由にする

Be-Museum



「帰路にて」

吉村 有加里 (文学部 国際言語・文化学科 デザイン&絵画コース 令和元年度卒業)

いつも利用している駅を電車内から見た景色を描いた作品です。

苦手な風景画に挑戦する目的でした。

普通の描き方では物足りないと思い、景色を歪ませた結果、不思議な空間となりました。

(油彩 F20号)



昼食付&
オリジナルグッズ
プレゼント!

きっと見つかる、
未来の自分。

2020 OPEN
Beppu University, Beppu University Junior College
CAMPUS

オープンキャンパスの内容

時間/10:00~14:30 (受付9:30~)

大学	☐ 全体説明会 (10:00~10:30)
	☐ 学科別セミナー (10:45~14:30)
	☐ 各種相談受付 (入試相談ほか/随時)
短大	☐ 科別セミナー (10:00~14:30)
	☐ 各種相談受付 (入試相談ほか/随時)
	☐ 保護者対象説明会 (13:00~14:00)

開催日
(予定) 4.26
日

7.19 8.22
日 土

別府キャンパス会場

文学部	食物栄養科学部
国際言語・文化学科	食物栄養学科
史学・文化財学科	発酵食品学科
人間関係学科	短期大学部
国際経営学科	食物栄養科
国際経営学科	初等教育科

お問い合わせ

入試広報課 TEL.0977-66-9666

[詳細はHPをご覧ください]

※状況によっては実施日が変更になる可能性があります。

別府大学はじまり物語

建学の精神をひもとく



Veritas Liberat

別府大学の正門をくぐると目に入ってくる『建学の精神』が刻まれた碑。そこに掲げられている「真理はわれらを自由にする」という哲学的な言葉の意味を、じっくり考えてみたことはありませんか？

今回の特集は大学の原点『建学の精神』について考えてみます。1950年、九州では福岡県以外にできた最初の私立大学としてスタートした別府大学。創設者の佐藤義詮は、この言葉にどんな想いを込めたのか。当時の学生たちは、どんな夢を抱いていたのか。

さあ、70年前のキャンパスへ、ワクワクドキドキのタイムトラベルに出かけませんか！



雑木林が生い茂っていた校門周辺



創設初期の校舎

創設間もない頃、雪の鶴見岳と扇山を背景に、まだ周辺には何もありません

真理はわれらを
自由にする



別府大学アーカイブズ

大学と地域の活性化に期待を込めた「別府大学駅」

「別府大学駅」から大学まで続く、ゆるやかな坂道の別府大学通り。駅に降り立った学生たちが、列をなして大学に向かう姿は、この通りの朝の名物です。暑い日も、寒い日も駅と大学を往復した日々が、学生時代の思い出になっている卒業生も多々いることと思います。

別府大学駅が開業したのは、1987（昭和62）年3月。学生の通学の足はもちろんのこと、地域住民の利便性も高まると、学園80周年記念事業として推進されました。



駅設置の費用も大学が負担し、新駅誕生が大学含めた地域の発展につながるよう期待を込めました。



当時、全国の国鉄（現JR）の中で「〇〇前駅」などという事例は少なくありませんでしたが、私的な学校名が直接命名されたことは、大変珍しいことだったそうです。

駅開設から8年後、1995（平成7）年4月には、別府大学駅に隣接した「別府市国際交流会館」の建設にともない、駅舎も整備されました。

近年は、アートで駅を活性化するプロジェクトや、上人ヶ浜から鉄輪温泉をつないだ観光ルートの提案など、「別府大学駅」からはじまる新たなつながりを別府大学から発信しています。

Be-News NO.120 CONTENTS

- | | | |
|----|---------------------|--|
| 03 | 特集 | 別府大学はじまり物語
建学の精神をひもとく |
| 08 | 学科からのトピックス | |
| 12 | スペシャルインタビュー | 中西 麻耶 選手 |
| 13 | 別府〰️温泉〰️大学 | |
| 14 | キャンパスボイス | テーマ／卒業していく先輩からのメッセージ |
| 15 | 研究室訪問 学びのトビラ | 短期大学部 初等教育科 講師 木戸 貴弘 |
| 16 | クローズアップ 別大生 | 下鶴 賢太郎
（文学部 人間関係学科 令和元年度卒業）
佐藤 詩織
（短期大学部 食物栄養学科 令和元年度卒業） |
| 18 | 第74回 石垣祭 | |
| 19 | サークル紹介 | 女子柔道部
MAP |
| 20 | 卒業生インタビュー こんにちは先輩!! | 三股 絵未さん
（食物栄養科学部 食物栄養学科 卒業）
東保 美紀さん
（短期大学部 生活科 食物栄養専攻 卒業） |
| 22 | 地域連携 | |
| 23 | インフォメーション | |

創設者 佐藤義詮



建学の精神は いかにして 生まれたのか。

歴史学者として大学史や佐藤義詮先生の歩みを探求している山本晴樹名誉教授、本学卒業生であり長らく大学職員として勤務、新聞記事から別府大学の歩みをたどってきた吉岡義信前附属図書館事務次長に、これまでの取り組みの中から見えてきた「建学の精神」と創設者・佐藤義詮像を語っていただきました。

戦後の自由主義隆盛という
時代背景を反映

山本 実を言うと私は、別府大学に着任した最初のうちは、それほど建学の精神を意識してなかったんですよ。「真理はわれらを自由にする(Veritas Liberat)」とか、なんか口はばったいというか、ちよつと気恥ずかしいというか(苦笑)、あまり深く考えることはなかったんです。ただ、私もこの大学に40年近く勤めてきて、勤続30年を過ぎた頃からテレビもなく言えるようになったのです。逆に言えば、そのくらいの時間が経たないと、この言葉の重みは入ってこないのかなと考えをあらためるようになりました。非常に奥の深い言葉であり、これを建学の精神に掲げる大学は、たいしたものではないかと、自分なりに大学史を調べはじめたのです。



＜吉岡 義信 前附属図書館事務次長＞

吉岡 はい。この『Be-News』の原点にあたる新聞でもあります。以降、私は国会図書館からマイクロフィルムの複写を取り寄せるなどして、あまり知られていなかった創立期の様子をひもといていきました。残念ながらすべての号が揃っていなかったのですが、創刊は1947年7月10日だったことがわかつています。

吉岡 確かに建学の精神をたどっていると、別府大学の歴史や原点への関心が高まりますね。私が本学について詳しく調べようとしたきっかけは、「プランゲ文庫」でした。「プランゲ文庫」とは、戦後の占領期にGHQ配下の民間検閲部隊(CCD)により検閲を受けた全国の出版物を所蔵したものです。私はこの中に、もしかすると大学に関するものがあるかもしれないと調べようとしたのですが、これがなかなか難しい。途方にふれていたら、早稲田大学の20世紀メディア研究所が「プランゲ文庫」をデータベース化し、公開したのです。さっそく検索をかけてみたところ、「別府女専新聞」の存在が明らかになったのです。

山本 別府大学の前身「別府女子専門学校」が発行していた新聞ですね。

吉岡 はい。この『Be-News』の



＜山本 晴樹 名誉教授＞

た「リベラルアーツ型」の教養大学といえますね。その後、新制大学制度の発足により、1950年には大分県初の私立大学として別府女子大学に昇格します。この時に文学部のみ、英文学専攻、国文学専攻といった単科大学が起点になったという点も、大きな意義があると思います。

人間形成としての
大学を目指して

吉岡 たとえば大学歌にまつわるエピソードがあります。1947年11月、文化人グループの「火の会」のメンバーが来別して別府市公会堂で文化講座を開催したのですが、その中に著名な詩人・草野心平氏がいらしていました。その翌日には別府女専でも講演会が行われたのですが、帰り際、女学生たちが草野氏を取り囲んで「校歌を作ってほしい」と懇願し、その熱意に込め、大学歌を作詞してくれたそうです。

山本 開校まもない頃、リベラリズムをめぐる講座は刺激的だったでしょうね。

吉岡 さらにその翌年には、同じ「火の会」の宅孝二氏から曲が届いたのです。文化祭を前にした女学生たちは、大喜びでピアノを囲み、練習に励んだと記事に書かれています。加えて、寮監先生も毎日のように嘆願の手紙を送っていたことも紹介されており、本学が生き生きとしていた雰囲気伝わってきます。

吉岡 文化学院に倣った自由で闊達な校風が、一流の先生が集う土台を作ったのかもしれません。

山本 いわば文化サロンのような様相を持つ

吉岡 義詮先生ご自身も、西洋古典に深い造詣をお持ちでしたね。

山本 ギリシャやローマといった西洋古典文学を探索されており、佐藤義詮記念館(18号館)の別府大学史展示室に展示されている「プラトン全集」などが、その象徴といえますね。そもそも建学の精神に「Veritas Liberat」とラテン語が併記されているのも珍しい。全国広しといえども別府大学だけではないですか？

吉岡 哲学者・三浦梅園の研究など、幅広い分野に関心を持たれていましたね。

山本 別府女子大学発足の背景には、戦後の女子教育のレベルをあげたいという思いも強かったのではないのでしょうか。戦前の別府には別荘文化が定着しており、ある

建学の精神にまつわるエピソード

本学の創設者・佐藤義詮先生が学んだ文化学院の伝統を受け継ぎ、「真理」と「自由」を掲げた建学の精神「**真理はわれらを自由にする(Veritas Liberat)**」。この言葉は、国立国会図書館目録ホールに、ギリシャ語銘文とともに掲げられている「真理がわれらを自由にする」と酷似しています。「**真理は**」と、「**真理が**」という箇所が違うだけなのです。

これについて、佐藤瑞威前学長は、次のように推測しています。佐藤前学長による

と、ギリシア・ラテン引用語辞典に「**真理は我々を自由にす**」という英国人編集者・ボーデンハムの言葉が収録しており、これを戦時中に読んだ義詮先生が感銘を受け、採用したのではないかと推測しています。一方の国会図書館は、1948年に制定された「**国会図書館法**」前文に由来しており、法案の起案に参画した歴史家・羽生五郎が、ドイツ留学中に**フライブルグ大学図書館**で見た**銘文**を採用したものだそうです。つまり別府大学の方が2年も早かったというわけです！



別府大学史展示室に展示されている「プラトン全集」

意味、エリート層も住んでいた土壌が育まれ、先進的な考えを受け入れる気運もあふれていました。終戦で焼け野原の時代でしたが、別府は食糧面で比較的恵まれており、引揚者や疎開してきた方たちの中には、高度な教育を地方で受けたという女性も多かったと聞きます。当時(戦前の古い概念での)家政科を、あえて設けなかったことも注目に値します。

吉岡 「別府女専新聞」にも、女子大学へ昇格するまでの生々しい様子を書いた記事が多数残されています。その中には「人間形成としての大学」という義詮先生の「夢」を表明した記事や、学生自身も目を輝かせながら理想を追い求める姿勢が伝わってくる記事もありました。

山本 そこから男女共学の別府大学となり、短期大学部も設置され、年を追う毎に現在の体制になっていくのですが、その根っこに建学の精神が脈打っていることは変わりません。新制大学制度の下、スタートして今年で70年。建学の精神が説く教えと、正面から向き合う機会にしていかなければなりません。

建学の精神が生まれた 前後の本学の歴史

- 1908年！ 豊州女学校設立
- 1946年！ 別府女学院開設
- 1947年！ 別府女子専門学校認可
(国文科・英文科・経済科)
- 1950年！ 別府女子大学設置認可
(文学部国文科・英文科)
- 1953年！ 自由ヶ丘保育専門学院開設
- 1954年！ 別府大学と改称(男女共学となる)
別府大学短期大学部設置(商科・生活科)
- ...

復刻！

幻の女専新聞から

ナイスな記事をセレクション！



ジースで走る近代彌次喜多道中記

エスポジット氏と佐藤義詮先生が東京から別府までジープで走行した記事。当時は高速道路など整備されておらず、なんと1,200マイル(約1,930キロ)を12日間で走ったそうです。車の故障や整備が行き届いていない道に往生する中、異国の友人といっそうの理解を深めたそうです。



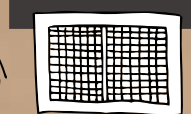
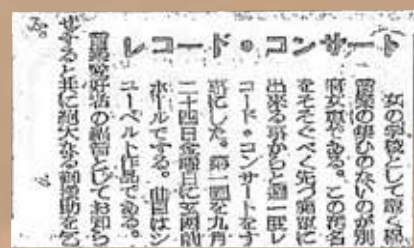
BCDG 盛大にダンスパーティーを終る

女専図書の拡充を目的に、ダンスパーティーを開催した記事が何度か登場します。この日のパーティーは夜8時にスタートして深夜12時まで開催されたようで、時には夜遊び(?)も楽しんでいたのでしょか。



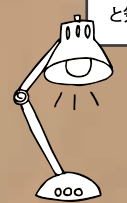
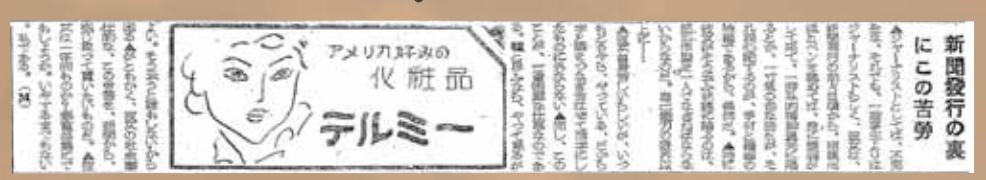
「女の学校として驚くほど音楽の集ひがない」との汚名返上のため、週一回のレコードコンサートを企画。第一回の曲目はシューベルト作品。

レコード・コンサート



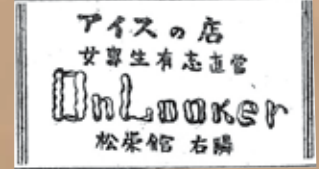
新聞発行の裏にこの苦勞

取材、原稿執筆…記事作成に奮闘するMさん。この苦勞を誰かにわかってほしいという乙女のボヤキが聞こえてきます(笑)。



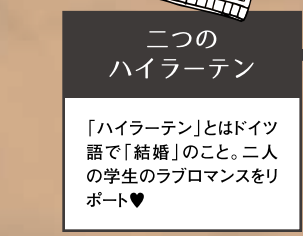
教場スケッチ 高山教授の巻

名物教授の紹介コーナー。当時の授業の様子が伝わってきます。教授もこういう記事が出るとなると気が抜けませんね(笑)。



アイスのお店 「On Looker」

「女専生有志直営」とあり、学生たちが起業していた!? 下段にある「松栄館」とは、当時の人気映画館。映画館の隣にあるアイスの店名が「On Looker」=「見物人」というのも洒落ていると思いませんか？



二つのハイラーテン

「ハイラーテン」とはドイツ語で「結婚」のこと。二人の学生のラブロマンスをレポート♥



自治会活潑に動く
考慮なき教務課に
対し反省を促す

大学職員にはドキリとする見出しです。「臨時試験解消」「夏休みの繰り上げ」について教務課へ陳上。学校への不満は、しっかりと主張していました。

女専1期生が語る

建学の精神

OG interview

学生時代に過ごした時間は一生の宝物

丸山 幸子さん(別府女子専門学校1期生)

別府大学の前身である別府女子専門学校1期生で、佐藤義詮先生に師事した「佐藤チルドレン」の二人が丸山幸子さんです。太平洋戦争の終戦後、新しい時代の波が押し寄せる中で、どのような学校生活を送り、何を学んだのでしょうか。レジェンドともいえる丸山さんの重みのある言葉が身にしみます。

激動の時代に
光を与えてくれた

私が生まれたのは、アメリカ発の世界恐慌が起こった1929年。幼少期から高等女学校現在の中学校)にかけては、日本が敗戦に向けて進み続ける時代を過ごしました。「敵性語」ということで英語の使用が禁止され、西洋音楽も満足に歌えなかったり、普段の授業でも軍靴の修理を行ったりと、私たちの世代は戦争によって教育が抑圧されていたと思います。だからこそ、戦争が終わって新しい時代が訪れた時には、本当にワクワクしました。

義詮先生との出会いが
あったから

そして、何よりもその後の糧となったのは、佐藤義詮先生をはじめ首藤基先生、佐藤美子先生などとの出会いです。義詮先生は詩人ですから膨大な量の書物をお読みになっており、他の先生の授業で学んだことを聞いてみても、

すぐに答えてくださいました。おかげで私は「浅学な質問はできないな」と思ったものです(笑)。

でも、義詮先生の本当に凄いところは、学長という立場でありながら、上からの物言いをまったくしなかったこと。常に「こうしないさ」ではなく「どうしたらいいと思う?」と私たちに判断

を委ね、考える力を身に着けさせてくれました。「みんなが右に進む中で、何も考えずに右に進むのが正しいのか。左に行くことで何があるのかを考えたことはあるか?」とおっしゃっていたのは非常に印象に残っています。そして実際に、私たちが議論を尽くして出した結論であれば、先生方は温かく見守ってくださいました。「別府女専新聞」や文化祭(現・石垣祭)の立ち上げなども、学生主体でやらせていただきましたから。

あらためて
建学の精神を認識

これは、「真理はわれらを自由にする」という建学の精神そのものだと思います。学友だけでなく、先生方ともそれぞれの立場から議論し、自分にはない知見に触れ、技術を身に付け、新しいことに挑戦するたびに私の人生の可能性は大きく広が



創設者・佐藤義詮(写真左)と学生たち

プロフィール 1929年、朝鮮半島生まれ。終戦とともに日本へ帰国し別府女子専門学校へ入学。卒業後は慶應義塾大学を経て別府大学附属高校(現・明豊高校)の社会科教諭へ。定年後は料理、海外旅行、コースなどを楽しむ日々。

別府は、世界に誇る温泉文化や多彩な芸術などが根付いた文化都市です。そんな別府の将来を担う学生の皆さんも、ぜひ学友や先生方との時間を大切にしてください。さまざまな会話や議論から生まれた知識や技術は、長い人生のどこかで、役に立つ場面が訪れるはずです。先輩として、皆さんのご活躍を応援しています。

日本精神衛生学会第35回大会の開催

メンタルヘルスから考える地域生活

12月7日～8日に本学で日本精神衛生学会第35回大会を開催しました。本学会は、メンタルヘルスについて医学、心理学、看護学、スポーツ学など様々な研究者や実践家が一堂に集まる学術大会です。今回は、「メンタルヘルスから考える地域生活」と題して西村靖史教授が大会長、人間関係学科の教員や学生が運営スタッフとして関わりました。

大会では、中野特任教授による大会企画シンポジウム「精神衛生活動におけるエビデンス」、西村教授による自主シンポジウム「教育から社会への接続」、大嶋名誉教授による自主シンポジウム「共生社会の在り方を求めて」など多様なテーマで参加者の知的好奇心を揺さぶりました。運営スタッフとして参加した人間関係学科の学生は、ポスター発表やシンポジウムなどで積極的に質問して盛会の一翼を担いました。著名な先生方に聴することなく質問する姿は頼もしく、将来対人援助職として働く際の糧になったことでしょう。なお、人間関係学科の卒業生の伊藤秀海さん（本学大学院臨床心理学専攻修士2年）が一般演題で優秀賞を受賞するという嬉しいニュースもありました。



ポスター発表の様子



メンタルヘルスの専門家が一堂に会しました



全員揃っての記念写真

バイオの魅力を再発見！

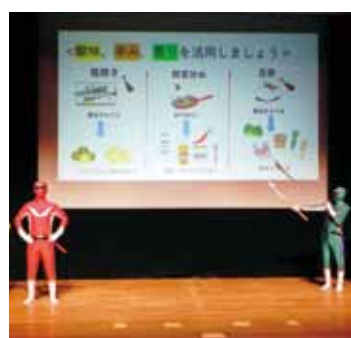
市民フォーラム「食と健康を彩る発酵食品」開催

「発酵食品をつくるために欠かせない微生物やバイオテクノロジーの魅力を知っていただき、発酵食品を食べて健康に過ごそう」という思いを込めて、発酵食品学科では10月5日、日本生物工学会九州支部主催、別府大学共催の「日本生物工学会九州支部2019年度市民フォーラム「食と健康を彩る発酵食品」を開催しました。

講演の部では、発酵食品を製造する企業の研究者が、焼酎や味噌、麹などの効用や機能性についてわかりやすく説明してくださいました。また発酵食品学科の教員による最新の研究に関する講演や食物



発酵食品を作る麹菌を観察しよう(実験)



ゲンエンジャーによる減塩教室



麹を使った料理教室

03.

発酵食品
学科

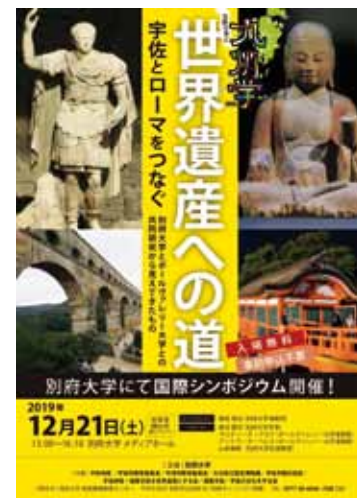
国際シンポジウム 「世界遺産への道～宇佐とローマをつなぐ」開催！ 世界遺産登録の第一歩！

01.

史学・文化財
学科

12月21日に「九州学」の国際シンポジウム「世界遺産への道～宇佐とローマをつなぐ」が開催されました。このシンポジウムでは、別府大学とフランスのモンペリエ第三大学・ポール・ヴァレリー大学との4年間の共同研究の成果をもとに、宇佐地域および宇佐神宮の世界遺産登録のための議論が行われました。当日は250名をこえる聴衆が会場のメディアホールに詰めかけました。

この共同研究では、古代の日本とローマにおける「聖域・街道・地割」の関係を比較しています。フランス南部の古代ローマの属州ナルボネンシスでは、州都ナルボ（現ナルボンヌ）で皇帝礼拝が行われる聖域から西南西に街道が直進し、その街道は農村部におけるケントゥリア地割（方格地割）の基軸線となつています。他方、宇佐では、宇佐神宮の西参道および宇佐大路の直線を延長すると中津市郊外に現存する沖代条里の南限線（現県道663号線）に行き当たります。日本の条里制と古代ローマのケントゥリア地割を比較する研究は以前からありましたが、この共同研究は、こうした地割と街道および聖域との関係に注目しようとするものです。



2019九州学シンポジウムチラシ



共同研究の成果を発表

学名譽教授の井上富江先生、および非常勤講師の坂井利佐子先生、廣岡恵美子先生のご協力を賜りました。記して感謝申し上げます。史学・文化財学科は、宇佐地域の世界遺産登録を目標に、今後もモンペリエ第三大学との共同研究を推し進めます。



シンポジウム後の記念撮影



日本とフランスを比較して貴重な提言をしていただきました

07 わくわくフェスティバルを開催

短期大学部
初等教育科

10年目の節目の大イベント!

11月13日、初等教育科は「第10回わくわくフェスティバル」を開催し、別府市内から約230名の園児たちが来場しました。今回は、ステージ企画とブース企画の2部構成となりました。

ステージ企画では各研究会の学生たちがハンドベルの演奏、人形劇、歌・ダンス等を、ブース企画では、迷路、ペットボトルボウリング、輪投げなどを開催し、園児たちも一緒に踊ったり歌ったりと大いに盛り上がり、楽しんでいました。

第10回目の節目を飾るにふさわしい華やかな会となり、また将来、保育士、教員を目指す学生たちにとっては、数多くの園児たち



大人も子どももけん玉に挑戦!



ハンドベルのメロディが心地よいです

06 基礎から学べる! 入学前講座

食物栄養学科入学前スクーリング

食物栄養
学科

食物栄養学科では、入学後スムーズに学生生活や授業に入っていくために、入学内定者に対して、入学前に宿題を課すとともに入学前講座を行っています。学力に不安がある方でもついていけるよう、高校化学・生物の基礎を中心に講義します。12〜3月までの計6回、入学前に生物・化学、栄養士や管理栄養士に必要な知識についての講義を行うほか、在学生との懇談会や教員紹介、学内施設の案内を行います。参加した高校生からは、「入学前に栄養に関する知識を学ぶことができ、



栄養士・管理栄養士の入門書です



化学や生物の基礎を分かりやすく教えています

入ってからの授業にもついていけるうです」「基礎から教えてくれるので、生物や化学を取っていない人も安心だと思います」などの感想をいただいています。

との交流を通して非常に有意義な体験となりました。

ステップアップする短大・食物栄養科

～学会発表や資格試験で高い評価を受けました～

12月7日に大分県栄養学会で2年生の坂口柚さんが、これまでの研究をまとめ「キャベツの微生物汚染と洗浄の効果」として発表しました。食物栄養科では、健康や食品衛生に関する研究成果を3年続けて学会で発表しており、昨年度は馬谷日菜子さん(現・食物栄養学科3年)が「調理後の家庭用まな板に対する熱湯消毒の効果」について、平成29年度は吉野真智子さん(現・大分健生病院勤務)が「健康的な食習慣へのアプローチとその実践」について発表し、それぞれ高い評価を受けました。「県内各地で活動している栄養士の方々が集まる中で発表することができ、大変貴重な経験をすることができました」



大分県栄養学会での発表



実験室で研究中

と坂口さんは語ります。また、今年度のフードスペシャリスト資格試験では、屋宜寿菜さんが全国3位、佐藤恵美さんが難関とされる専門フードスペシャリスト(食品流通サービス)資格部門で全国4位の成績を収め、それぞれ優秀賞を受賞しました。さらに佐藤さんは全国で約九千人が受験する栄養士実力認定試験でもトップクラスの成績優秀者として表彰されました。

研究や資格試験で活躍する学生の頑張りや、学科も活気があふれています。社会人になっても本学で学んだ知識・経験を十分に生かして、ステップアップすることが期待されます。

動画制作で社会に通じる力を身につける!

大学施設のCM用ショートムービーを制作

「文学部で芸術を学ぶ」を打ち出す芸術表現コースでは、芸術に必要な知識・技術とともに、協調性や自発性など社会に求められる力を身に付ける教育を行っています。その一環として、「発展演習1・2(2年必修科目)」では、ショートムービーの作成を課題としています。今年度は、大学の創設者を記念した「佐藤義詮記念館」と「大分香りの博物館」のCM用ショートムービーを制作しました。まず2年生全員は、マンガの絵コンテや日本語の敬語表現などについて学び、各グループに分かれて、監督、記録係、ナレーション、



撮影した映像を確認中



大分香りの博物館をよるしく!

編集など作業を割り振り、実際の制作作業に移りました。打合せしていく中で、絵画や美術史の担当教員が助言を行い、映像・アニメーション教員からは直接指導を受け、作品を完成させていきました。それぞれのグループで力を合わせて1つのテーマに取り組むことで、社会に必要なコミュニケーション能力や芸術に必要な表現力を養うことができたと思います。

今後さらに各専門領域でそれらの力を深めていくことを期待しています。

たび研、おおいた産学官交流合同シンポジウムに出場

ポスターセッションで「最優秀賞」受賞

「旅と地域の研究会」(通称…たび研)は、11月12日に大分市のJ・COMホルツホール大分で開催された『おおいた産学官交流合同シンポジウム』のポスターセッションに出場し、最優秀賞を頂きました。

この催しは、県内大学の在学生がポスターセッションという形で日頃の成果を発表するもので、別府大学では国際経営学科のたび研チームが出場しました。たび研チームは「自治体・企業との連携事業による地域資源の観光的活用に向けた研究」の題目で発表しました。豊後高田市と共同で夷地区の国指定名勝中山仙境をモチーフとしたタオル制作、株式会



最優秀賞を受賞。努力が報われました



たび研の今年の活動を発表しました

社フエリーさんらわあと連携した船上での別府の魅力発信活動について発表しました。

当日は理系のポスターが大半を占めており大変圧迫されましたが、「やるしかない!!」と開き直ったの発表でした。

審査は参加者の投票によって行われ、なんと最優秀賞を頂きました。実用的な成果を発表した他チームにはとても申し訳ない気持ちでしたが、「地元愛にあふれていた」との講評を頂き、安心するとともに自信にもなりました。また、他大学の研究にも触れることができ、とても良い経験になりました。

04

国際言語・文化
学科

05

国際経営
学科

ビームスジャパンで開催された 「BEAMS EYE on BEPPU」に参加

9月11日から約1ヶ月間、別府市とセレクトショップ大手のビームスのコラボ企画「BEAMS EYE on BEPPU」が、新宿のビームスジャパンで開催されました。別府市の新しい魅力を発信するもので、本学は、別府“温泉”大学として参加し、温泉を歴史や芸術、食など多方面からアプローチするリレー講義「温泉学概論」の紹介などを行いました。本学の温泉研究・教育活動を幅広い方々に知っていただく機会となりました。



↑別府“温泉”大学のPR動画を作成し、YouTubeで公開。飯沼学長の体を張った演技が話題に！



←卒業生のお笑いコンビ「おふろ」も応援に来てくれました



「別府“温泉”大学」の湯・特別開放！

別府大学は、キャンパス内に4つの源泉、7つの温泉施設がある、全国でも珍しい有泉大学です。11月4日、「石垣祭」開催に合わせ学内温泉（第二体育館）を特別開放しました。普段は在学生など大学関係者しか利用できない温泉に1日限定で入浴できるということで、県内外から62名の温泉ファンが参加してくれました。



↑「いい湯！」とみなさんに好評でした！



↑別府八湯温泉道スタンプも登場！

一緒に湯に学ぼう！ 別府“温泉”大学

世界有数の湧出量を誇る温泉都市・別府市に位置する大学として、地域の宝である「温泉」を研究し、その成果を地域に還元することは地元大学の使命です。別府大学では2019年秋より、これまでの温泉研究・活動を集結し「別府“温泉”大学」として情報発信を行っています。

キャンパスを飛び出し 鉄輪温泉で 「温泉学概論」特別講座

10月18日、別府大学から一番近い温泉地・鉄輪で「日本温泉文化の原点 ～一遍上人の道～」テーマに、出前講義を行いました。飯沼賢司学長が鉄輪温泉の歴史についてミニ講義を行ったあと、鉄輪のまちづくりで活躍する地域の方に登壇いただき、トークセッションを行いました。鉄輪温泉を開いた一遍上人が上陸したとされる上人ヶ浜から鉄輪に続く道に注目し、この道こそが日本の温泉文化の発祥ではないかという考えのもと、別府観光やまちづくりの新たな展望を語り合いました。



↑別府の新しい観光の切り口を鉄輪から発信しよう機運が高まりました

温泉の神様!? 指原勇さんに、別府“温泉”大学名誉博士の称号授与

11月26日(いいふろの日)、別府市の指原勇さんに、別府“温泉”大学名誉博士の称号を授与しました。指原さんは、市内の温泉の88湯を88回巡り、別府八湯温泉道の「泉聖※」第一号に認定されました。また、本学においても、「温泉学概論」など公開授業・講座の常連受講生でもあります。このような指原さんの功績と温泉への情熱を高く評価し、今回の授与に至りました。今後、指原さんにはこれまでの経験を活かし、別府“温泉”大学の活動をサポートしていただきたいと考えています。



※別府八湯温泉道初代「泉聖(せんせい)」…別府市内の温泉を88湯巡ると「温泉道名人」に認定され、88湯を88回巡ると、温泉道最高位「泉聖」になることができます。

別府“温泉”大学名誉博士第一号となった
指原勇さん



Special Interview

スペシャル
インタビュー

別府大学と同じ学校法人に属する明豊高校は、スポーツの名門校としても知られ、多くのアスリートを生んでいます。2020年東京パラリンピックの出場を決めた中西麻耶選手も、そのひとり。母校の思い出と、後輩たちへのメッセージを聞いてきました。

中西 麻耶選手

Maya
Nakanishi

パラ陸上競技選手(所属 阪急交通社)

Profile

1985年生まれ、大分県出身。2004年に明豊高校を卒業。北京・ロンドン・リオパラリンピック日本代表。2020東京パラリンピック出場も決め、メダル獲得を目指し練習の日々。走り幅跳び日本記録・アジア記録保持者(5m51)



吉良先生と再会。最初あった時は「私を強くください!」と先生に詰め寄ったというエピソードも。

私が明豊高校へ進学したのは、ソフテニスの名門だったから。由布市庄内の山奥育ちの私ですが、中学から始めたソフテニスでもっと強くなりたいと思い、強豪選手に混じって入部させてもらいました。今もいろいろ吉良洋一先生は、2年生からの顧問。きっと私たちの力になってくれると思わせてくれる先生でした。入学してから寮生活も始めました。最初は慣れず、一日をこなすのがやっと。1年生は先輩の練習着を洗濯する役割があり、それが終わったら深夜まで素振りの自主練。翌日は早朝練習という日もありました。寮生は携帯電話を持たせてもらえなかったので、中学時代の友達とのやりとりは手紙だけ。受け取ったら、何

大分からメダル獲得を誓う 義足のアスリート

度も何度も読み返してましたね(笑)。最後のインターハイ団体戦で全国大会へ行けなかったのは、私のミスが原因だと今も悔やんでいます。卒業してもソフテニスを続けてきたのも、その悔しさがあったからです。事故で足を切断したのは、働किながら国体を目指していた時。そこから陸上へ転向し、義足で走り幅跳びのパラリンピック選手として3回の出場を果たしました。その間、アル・ジョイナーという素晴らしいコーチにも出会えました。一度は引退を決意したものの、再び東京パラへ出場してメダル獲得を目指したのも、地元・大分を拠点に活動するようになったのも、彼の叱咤激励があったからです。今思えば、明豊時代の3年間に、たくさんのことを教わりました。全体の流れを把握しながら、次は何をするべきかを考えるようになったのもその頃から。後輩たちに何かアドバイスを求められたら、失敗を恐れないでと伝えたい。失敗から学ぶこともたくさんあります。社会人になると守ってくれる人が少なくなってきました。今のうちに、たくさんのチャレンジをしてもらいたいです。



短期大学部 初等教育科 講師

木戸 貴弘

Kido Takahiro



研究室訪問 学びのトビラ Vol.12

別府大学の学びの最先端をレポートします。

プロフィール

1989年佐賀県生まれ。2014年福岡教育大学大学院教育学研究科保健体育コース修了。修士(教育学)。小田原短期大学(大阪)保育科助教を経て2019年4月より別府大学短期大学部初等教育科講師として着任。本学では体育や情報リテラシー、保育内容に関する授業を担当。著書「幼児教育における表現I(理論的研究)」(共著/三恵社/2018年)など。趣味はスポーツや野外キャンプなどの屋外活動。



学生の頃、実習に行った際にももらった子どもたちからの手紙や寄せ書きです。あの頃の気持ちを忘れず、今も教育研究活動に励んでいます。

「運動遊び」から子どもの未来を考える

運動遊びの難しさ

別府大学短期大学部に赴任してから、これまで以上に多くの保育者の方とお話をする機会が増えました。その中で「跳び箱ができるようになるには」「鉄棒の補助の仕方」など運動

投げる動作の研究

私の専門は身体教育学や身体発育発達学です。幼児期の運動動作の発達について研究をしており、特に投げる動作に関する研究を行っています。投げる動作は2歳頃から6歳頃までに身に付くとされていますが、未発達のままでいる幼児が多くいると言われています。この投げる動作は、野球やソフトボールといった運動だけではなく、身体の使い方が似ているバレーボール、テニスといった運動とも関係しており、就学後の運動との関わり方に強く影響を及ぼします。そこで、保育の中でどのような運動遊びを取り入れると投げる動作が上手に身に付くのか、どうしたら運動遊びが好きになるのかという点を幼稚園や保育所に実際に外向き研究を進めています。私は、投げる動作の上手な運動好きな子どもを育て、生涯スポーツに繋がると信じています。

学生とともに良いところ探し

初等教育科の学生の多くは、小学校の先生や幼稚園の先生、保育士を目指しています。いずれも対人関係職であり、人との繋がりが欠かせない職業だと思います。私は学生に対して、「自分の良いところや相手の良いところを見つけてみましょう」と問いかけることがあります。なかには、なかなか良いところを見つけない学生もいます。人は欠点を見つけないことは簡単にできず、逆に利点や美点を探すことは難しいと感じてしまいます。将来、教育者

～ Other sides of Takahiro Kido ～

- 1 赴任前は奈良県に住んでおり、よく奈良公園に行き、鹿たちと遊んでいました。今では鹿が一番好きな動物です
- 2 私が担任をしているクラスでは、元気がありすぎてパワーを吸い取られます。その分、私もたくさんのパワーをもらっています
- 3 初等教育科の伊藤昭博先生にいただいたマッサージ器具。研究室で頻繁に腰をゴリゴリして疲れを癒やしています
- 4 幼少期より大学卒業まで野球をしていました。この経験が今の研究活動に影響を与えているといっても過言ではありません



や保育者として、その子の欠点を指摘し改善に向かわせようとすることは立派な教育だと思っています。しかし、その子の良いところを賞賛し、さらに伸ばしていくことも同様に立派な教育だと考えています。私も日頃から学生の良いところを探し、学生がより成長できるようサポートしたいと思っています。



自分が興味あることや今しかできないことに挑戦してみてください。海外に行くなど、高校生では難しいことにも挑戦してみましょう!

大学院文学研究科 文化財学専攻博士前期
令和元年度卒業 中塚 菜理
(大分県明豊高校出身)



文学部 国際言語・文化学科
令和元年度卒業 野田 琳愛
(熊本県立由緒高校出身)

4年間葛藤もありましたが、「教員になる」という目標があったから頑張れました。皆さんも何か目標を掲げて頑張ってください。

とにかく自分のやりたいことを決めて、早めに行動することが大事です。また、色んな会社を受けて場数を踏むのも大切だと思います。大変だと思いますが、頑張ってください。



国際経営学部 国際経営学科
令和元年度卒業 黒末 京香
(大分県昭和学校高校出身)



文学部 人間関係学科
令和元年度卒業 加々山 幸浩
(高等学校卒業程度認定試験合格)

たと思いい通りの道でなくても諦めず、今自分がいる環境でもがいてみてください。道が見えてくるはずです!



食物栄養科学部 発酵食品学科
令和元年度卒業 千代 時男
(東京都目黒学院高校出身)



国家試験に向けて忙しくなる3,4年生まで遊びも勉強もたくさんを経験して下さい。失敗してもいいので、今しかできないことに挑戦してみましょう!

食物栄養科学部 食物栄養学科
令和元年度卒業 大岩 詩音
(大分県立佐伯南高校出身)



短期大学部 初等教育科
令和元年度卒業 汐月 光咲
(大分県立日本文科大学附属鳳高校出身)

どんな時でも目標、誠意そして情熱を持って頑張ることが大切です。わたしは幼稚園での実習体験を通してそう感じました。



短期大学部 食物栄養科
令和元年度卒業 屋宜 寿菜
(大分県立国東高校出身)

先生方は優しくても相談に乗ってくれるので、困った時は研究室を訪ねるのもいいかもしれません。勉強は大変かもしれませんが、学生生活も大いに楽しんでください。

キャンパスボイス Campus Voice

ちょっと、聞かせて♪別大生に突撃インタビュー 卒業していく先輩からのメッセージ

ご入学、そして進級おめでとうございます。

皆さんの目の前には様々な可能性が広がっています。

進む道に迷うこともあると思いますが、

ぜひ別府大学で未来を切り拓いていってください。

これからの道標として、この春卒業した先輩から

新入生・在校生への贈る言葉をお届けします。

普通の学生にはできない経験と 充実の育ドル活動

食物栄養科の学生による食育普及活動の「育ドル娘」。
その9代目リーダーを務めたのが佐藤さんです。
高校時代に放送部で培った経験を生かし、
小柄ながら迫力のパフォーマンスで
さまざまなイベントを盛り上げました。
卒業後は栄養士として、子どもたちに
食の大切さを伝えようと意気込んでいます。

育ドル娘としての学校生活はどうでしたか？

入学前に育ドル娘を知っていたので、誘われたらやってみたい
と思っていたんです。入学してから、先生に声をかけてい
ただいて、すぐに参加しました。高校で放送部だったので、
マイクを持って喋るのは好きです。その時の経験が育ドル
娘のステージ活動などで役立ちました。大分県内だけでなく
京都や東京にも出向いて特産品をPRするなど、年間ス
テージは40回ほど。学校で勉強して、週末にはバイトも育ド
ルもして、盛りだくさんでした(笑)。

育ドル娘のリーダーはどうでしたか？

リーダーになりたての頃は、しっかりしなきゃと気負いすぎて
いました。「こうなりたい」という理想像があって、自分を追い
込んでしまい、つらかったです。でも、全員で仕事を分担する
よう改善してからはすごく楽になって、メンバー同士の信頼
関係も生まれ、雰囲気も変わったように思います。誰かに任
せることの大切さやチームの作り方など、社会的にも勉強
になることばかりでした。

別府大学でのキャンパス生活はいかがでしたか？

別府には温泉のイメージしかありませんでした。でも実際は
レトロな街並みがおもしろいし、個性的なお店もたくさんある
し、まだまだ魅力がいっぱいありそうですね。こういった一
面が多くの人に知られていないのが、もどかしいくらいです。

卒業後の夢は？

大分市の保育園に就職が決まりました。園の教育方針に
“自然の中で育てる”が掲げられていて、園長先生は食に対
するこだわりを大切にしています。ですから就職後は素材そ
のものの味や食感が伝わるごはん、食から発見があるような
調理方法を提案していければと考えています。

在校生へのメッセージをお願いします

一見すると関係ないように思われることの中にも、ひとつひ
とつが“食”の勉強につながります。また先生が授業中にポ
ロリと話す世間話の中に、結構大事なことがあったりしま
す。どんなことにも関心を持って、たくさんの気づきを見つけ
てください。

年齢・性別・障がいに関係なく 多くの出会いや交流を 生み出したい

別府大学青年団や手話サークルに所属し
地域に飛び込んで積極的な課外活動を
行ってきた下鶴さん。障がい者スポーツを通じて
みんなが楽しく交流できる
「ソイスポ(Social Inclusive Sports Project)」を立ち上げ
デフ(聴覚障がい者)ビーチバレーボール、車いすマラソン、
車いすバスケの3回の体験交流会とシンポジウムを
実施しました。

福祉の道に進もうと思った理由は？

オープンキャンパスに参加した時、尾口先生の講義で、精
神障がい者の一般就労をサポートする精神保健福祉士に
ついて知り、とても興味を持ちました。自分自身、臨床心理
士のカウンセリングを受けた経験があったので、悩み苦しむ
人の心に寄り添いたいと思いました。

4年間で取り組んだ活動について教えてください

青年団の活動では、「あしなが学生募金」のボランティアや
日田市天瀬地区の方との交流を行いました。また、県内の
青年団の集い「第16回おおいた青年交流祭」では実行委
員長を務め、「大分県少年の船」では2回リーダーとして参
加し、チームをまとめることの大変さ、楽しさを経験できま
した。手話サークルの活動では、市内の幼稚園や障がい福祉
施設、デフビーチバレーボールの国際親善大会で手話歌を
披露したことが一番の思い出です。

ソイスポを立ち上げたきっかけは？

手話サークルの活動を通じて、「一般社団法人日本デフ
ビーチバレーボール協会(DBVA)」代表理事の牛尾洋人
さんに会いました。ビーチバレーボールを通じて選手のみ
なさんはもちろん、様々な人に出会うことができ、スポーツに
は人と人をつなげる力があると感じました。この経験から、障
がいのあるなしに関係なくスポーツを楽しむ交流会「ソイス
ポ」を立ち上げました。たくさんの方の支援を受け、デフビー
チバレーボール、車いすマラソン、車いすバスケの体験交流
会とシンポジウムを実施することができました。

今後の活動や夢を教えてください

卒業後は大分に残り、精神保健福祉分野で働きます。障が
いにはさまざまな背景や症状があります。当事者の方一人
ひとりに寄り添い、地域で幸せに暮らせるように長い目で関
わっていきたいです。またソイスポの活動も続け、障がいへ
の理解を深め、少しでも偏見や差別のない社会にすること
を目指していきたいです。



キラリと輝く別大生を
紹介します。

短期大学部
食物栄養科
令和元年度卒業

佐藤 詩織

(大分東明高校出身)

文学部
人間関係学科
令和元年度卒業

下鶴 賢太郎

(鹿児島県立鶴丸高校出身)



「クリスマスHanabiファンタジア」では、
子どもたちとクリスマスソングを歌いました



NHK みんなのうた「全国でパブリカ〜
九州・沖縄バージョン〜」でFoorinと共演!



ソイスポの車いすバスケ交流会。自らも
出場し、汗を流しました



DBVA主催の国際親善大会では、手話
歌で「君が代」を斉唱しました



サークル

女子柔道部



躍動感ある投げ技。
練習は常に全力です！

柔道部 主将
国際経営学部
国際経営学科 4年
照井 優月
(愛媛県立宇和島東高校出身)



学生からのひと言
監督の阿部先生の指導を受けながら、部員主体で稽古内容を作り上げ、実践しています。九州大会はもちろんのこと全国大会上位入賞のため、部員全員一丸となり試合に臨みます。

サークル紹介

学部、学科を超えた絆は、人生の宝物

「イベントの準備は企画を含めて時間が掛かり大変ですが、やり遂げた時の達成感はひとしおです。また大運動会のような大きなイベントを経験することで、企画や準備の打ち合わせを綿密にしておくことの重要性に気づくことができたので、それをこれからの活動に生かしたいと思います。メンバー一人ひとりが楽しんでほしいし、何より他サークルとも交流を深めてほしいです。」と意欲たっぷりに語る部長の角畑君。

MAP(エムエーピー)の主な活動はイベントの企画とその運営・進行管理等です。現在部員は35名で2年生が幹部となり、イベント企画を行っています。代表的なイベントとしては、毎年12月に行われている大運動会です。これは運動会と球技大会を合わせた大会で、今年も弥次喜多俱樂部や器楽部等の多くのサークルが集まって、順位を競いました。MAPのモットーは「企画したイベントを思いっぴい楽しむ」こと。このようにサークルを越えてイベントを楽しんでもらうことで、サークル間のつながりも強まります。大学に入って何か面白いことを探しているならぜひ一度MAPの活動に参加してみてください！

学生からのひと言
毎週月曜日に部会、木曜日には部会と活動を行っています。サークル間の交流やイベントの運営・企画にも興味があるという方は、MAPに入って活動の幅を広げてみてください。



大運動会での玉入れの様子。
皆熱く盛り上がりました！



MAP 部長
国際経営学部
国際経営学科 3年
角畑 倅太
(大分県立中津北高校出身)

サークル

MAP



一瞬に勝負を賭ける！

「武道特有の緊張感や相手に勝利した時の高揚感が大好きです。小学校から柔道中心の生活を送っており、朝から晩まで練習するのが当たり前になっています。練習量では他の部にも負けていません」と得意そうに語ったのは主将の照井さんです。

た。現在の部員数は大学、短大あわせて10人。部員の中には高校もしくは中学からずっと柔道を続けてきた部員も多く、実力者揃いです。しかし全国大会の強豪校は年々手強くなっており、稽古の質的向上が課題となっています。柔道の勝負は一瞬で決まるので、その瞬にすべての力を出せるよう日々の練習や実戦形式の稽古などの場で、技術と経験を蓄積し試合に臨んでいます。

今年は大運動会が控えています。稽古が、その熱気を力に変えて女子柔道部も熱い試合を見せてくれると期待しています。

74TH 石垣祭 瞬

テーマ

～またたき～



11月2日(土)～3日(日)に、別府キャンパスにて「第74回石垣祭」を開催しました。毎年、学生のみで構成される「石垣祭実行委員会」を中心に企画・運営されています。音楽系サークルのライブやミス・ミスターコンテストなど多彩なステージイベントや各サークルや研究会による出店など、にぎやかな2日間となりました。今年のお笑い芸人LIVEでは、アインシュタインさんとラニーノーズさんがゲストに登場してくれました！ご来場いただきましたみなさん、ありがとうございました。

ジビエ料理研究会の
ウサギ、イノシシ、シカの
3種盛り！



イーヤー
サーサー！

ハーイーヤー



今日は気合
入ってマス



あなたと
飲みたい
レモンティー！



今日は一日
楽しめます！



器楽部のおでんは
味しみみでーす



留学生と一緒に
ハイチーズ



器楽部ライブ



ミス
コンテスト
予選



お笑いライブゲストの
アインシュタインさんと
ラニーノーズさんと記念撮影！



フリーパーソナリティ
東保 美紀さん短期大学部 生活科食物栄養専攻
平成8年3月卒業（大分県立別府青山高校出身）生粋の別府女子、
愛情たっぷりに
別府のまちを盛り上げます

とんぼチャンネルのパーソナリティとして、老若男女のファンを持つ東保さん（写真左）。いろいろな人に出会えることが、なによりも楽しみとのこと。

「別府八湯温泉まつり」「べっぴん火の海まつり」をはじめ多くのイベントでMCをしている姿を見かけたかと思えば、厳粛な式典から結婚式の司会、別府のケーブルテレビ『とんぼチャンネル』の番組リポーターまで、別府の方であれば知らない人はいないほどの存在感を発揮している東保美紀さん。実は本学短期大学の卒業生なのです。

「料理が好きで入学したのですが、食物に関する専門的な授業に四苦八苦。ここで紹介されるほど優秀な卒業生ではないですよ（苦笑）」

別府生まれの東保さんの実家は、地元根ざした生活雑貨のお店。幼少時から店番をまかされることもあり、誰とでも親しくなれるオープンな性格は、そこに由来しているそうです。

「在学中は、サッカー部のマネージャー

として鍛えられました。でもこの経験が、社会人になってから、いろんな場面で役に立っているんです」

卒業後、城島後楽園ゆうえんち（当時）へ入社。キャラクターショーのMC経験を経て司会業に開眼した後は、フリーランスの道を目指してまっしぐら。持ち前のバイタリティに加え、「いくつもの出会いがあったからこそ、今の自分がある」と東保さん。

「学生時代からを振り返ると、出会ってきた人たちの絆の大切さを実感します。後輩たちには、今ある日々を大切に過ごしてもらいたい」

はちきれんばかりの「別府愛」を携え、たくさんの人たちとのふれあいを噛みしめる毎日を重ねてきた東保さんらしいメッセージ。別府を元気にする、栄養士として、ますます活躍が期待されます。



何事も体当たりでチャレンジする姿勢が人気の秘密。音楽イベントの司会では、黒柳徹子さんをイメージした大胆な衣装で登場し、会場を沸かせました。

医療法人 大場整形外科
管理栄養士
三股 絵未さん食物栄養科学部 食物栄養学科
平成24年3月卒業（長崎県九州文化学園高校出身）スポーツに打ち込む
子どもたちの成長を、
サポートし続けていきたい

平均的な睡眠時間や実現したい体型などもヒアリングしながら、一人ひとりに合わせた栄養管理プランを提案

大分県のスポーツ整形外科分野をリードするクリニックとして、アスリートの治療や故障予防など、さまざまなケアを提供している大場整形外科。このクリニックで管理栄養士を務めているのが、本学の食物栄養学科を卒業した三股絵未さんです。

三股さんは、スポーツに打ち込む子どもたちの健全な成長を食生活の面から支える「栄養サポート」をライフワークとしています。原点は、自身の中学・高校時代。強豪校のバレーボール部に所属していたものの、栄養管理に関する正しい知識を知らずに無理な減量をしたことで、疲労骨折を繰り返してしまっただけです。

「私のような選手を出したくない」そんな想いが、三股さんを管理栄養士への道に誘いました。

しかし、入職当時は栄養サポートの進め方が体系化されていなかった

ため、三股さんは数年をかけ、手探りで現在の業務につながる土台を構築していきま

す。その間、決して怠らなかつたのは院内でのアピールです。

「平川史子教授からプレゼンのイロハを叩き込んでいただいたこともあり、自分が行っていることを端的に説明して、他のスタッフさんに私の仕事を理解してもらえよう努めました」

努力が実ったのは昨年8月。体系づくりの過程で蓄積した知見を日本スポーツ栄養学会にて発表し、優秀演題賞を受賞しました。おかげで彼女への注目度や理解度も高まり、院内MVPも獲得しました。

「私が培った知識は私の中に留めるだけでなく、共有することに意味があります。将来的には、全国の管理栄養士とつながるコミュニティづくりにも挑戦したいですね」

三股さんの眼差しは、大分を越え、より広い世界を見つめています。



大場整形外科は大分のスポーツ医療の中心として、腰椎疲労骨折（成長期アスリートの腰痛の原因）においては全国でもトップクラスの診療実績を誇っている

地域連携



ラグビーワールドカップで別大生が活躍！

2019年9月20日から開催されたラグビーワールドカップ2019日本大会。日本代表がワールドカップ初の決勝トーナメントに進出する快挙もあり、日本中を熱狂の渦に巻き込みました。大分県も開催地の1つとして5回の試合が行われ、国内外からラグビーファンが訪れました。本学学生もさまざまな形で、ラグビーワールドカップの大分開催の応援に携わりました。

スチュワード派遣

会場となった昭和電工ドーム(大分市)の警備の要員として、会場内の案内誘導、チケット認証、通行規制や侵入防止の業務にあたりました。試合開催時間の都合で、早朝、深夜にも及ぶこともありましたが、700名(総派遣数)が会場の警備を務めました。

アートでおもてなし

国際言語文化の学生は国内外から来県するラグビーファンをもてなそうと、別府駅構内におもてなしポスターと別府公園に顔出しパネルを制作しました。写真スポットとして好評でした。
(制作支援: BEPPU PROJECT)



ニュージーランドの「ハカ」という民族舞踏を踊ってアピールする勇ましくもほえましいラグーマンの顔出しパネルを設置しました



ラグビーでトライを目指す別府の住人たちのイラストを描いています

ソーセージを商品化

別府大学短期大学部食物栄養科の食育推進グループ「育ドル娘」は、大分県を訪れるチーム(ニュージーランド、カナダ、ウェールズ、オーストラリア、フィジー、ウルグアイ)をイメージしたソーセージを開発しました。会場や別府市内の飲食店で提供されたほか、デパートでも販売されました。



杵築市太田の比枝社にて むぎ酒を振る舞いました



杵築市太田地区の比枝社では、毎年秋の例祭の時に氏子らによって製造されたむぎ酒を振舞っています。むぎ酒は大麦と麹のみで作るノンアルコールの発酵食品で、製造方法は甘酒と似ています。

昨年度より発酵食品学科では、学生がこのむぎ酒造りを手伝っています。本年度も8リットルのむぎ酒を製造し、11月23日の例祭で参拝者らに振る舞いました。また、当日は早朝より地元の方とお祭りで使用する餅を作るために、餅つきも行いました。さらに、2名の学生が神輿の担ぎ手として参加し、祭りを盛り上げていました。

このように、地域に残る発酵文化の伝承に触れることは発酵を学ぶ学生たちにとって貴重な経験となります。今後も地域の皆さんと大田の発酵文化を活性化させていきたいと考えています。

照井優月さんが高齢者を救助し、 JAべつぷ日出より感謝状

国際経営学科3年の照井優月さんが、JAべつぷ日出本店駐車場にて転倒負傷している女性高齢者を発見し救助したとして、JAべつぷ日出より感謝状が贈呈されました。女性は階段で転倒、頭部より出血し、ビル玄関前にて倒れこんでいたところを照井さんに発見されました。



第34回 ミュージックフェスティバル開催

今年で34回目となる初等教育科「ミュージックフェスティバル」が12月25日に、別府ビーコンプラザで開催されました。毎年、学生実行委員会が中心となり、初等教育科全員参加でステージを作り上げています。今回は教員によるピアノやクラリネットの演奏、クラス対抗の合唱、ハンドベル研究会の発表など、終始華やかな雰囲気の中、初等教育科らしい笑顔と元気いっぱいプログラムとなりました。



大学院生伊藤秀海さんが 「日本精神衛生学会」で 優秀賞を受賞

本学大学院臨床心理学専攻修士課程2年の伊藤秀海さんが、「日本精神衛生学会第35回大会」での一般演題発表において優秀賞を受賞しました。伊藤さんは、福祉職員を対象に睡眠や生活習慣の認知の変容を目的とした1ヶ月間のセルフモニタリングプログラム介入による臨床心理学的効果を検証しました。伊藤さんは「地道に続けてきた研究が評価されてうれしい」と喜びを語りました。



学校法人別府大学 寄付サイト公開のお知らせ

この度、学校法人別府大学寄付サイトを公開いたしました。学校法人別府大学の設置校において、より良い教育を提供するための資金として活用させていただきます。【教育研究振興資金募金】を受付しております。従来通りの払込用紙による寄付だけでなく、クレジットカード決済による寄付も可能となります。皆さまのご支援をお願いいたします。【お問い合わせ先】学校法人別府大学 財務部 経理課 TEL 0977-666-912(直通)



編集後記

今年、別府女子大学が創設されて70年を迎えます。そこで、本号では、建学の精神「真理はわれらを自由にする」を特集しました。これをきっかけに、新18号館2階の「大学史展示室」を多くの方が訪れることを期待しています。別府大学は、小さな大学ですが、特に、新入生の皆さんが、本学の歴史・伝統に触れ、これからも引き継いでいくことを期待しています。(し)

Be-Newsは HPでもご覧いただけます。

本学HPでは、下記ページにてBe-NewsのPDF版を公開しています。バックナンバーもご覧いただけます。
<https://www.bepu-u.ac.jp/general/pr/>



Be-Newsへのご意見・ご要望がございましたら、下記までご連絡をお願いいたします。
別府大学・別府大学短期大学部 広報室 TEL: 0977-66-6262
〒874-8501 大分県別府市北石垣82 E-mail: koho@nm.bepu-u.ac.jp